

鶏の成長過程における鶏体各部の大きさ

岡山県養鶏試験場

鶏の管理様式が平飼管理より立体管理に移り変わり、とくに育成期間においては立体的な管理様式が大部分を占める現状であります。

従来の平飼管理においては、管理器具の各部分の大きさは大して問題にされなかったのですが管理様式が立体的になると、音出しの部の大きさ、1.8m (1間) 当たりに雛が並ぶことができる羽数、給餌器の深さ、床の鉄線の間隔等をどの位にしたらよいか問題になってきます。

これは成鶏では大体見当がつかますが、育成期間における適切な大きさははっきりしたことが分らず、その基礎となる成長過程における鶏体各部位の大きさについては調査が殆んど行われておらず、明確な数値がつかめなかったのであります。

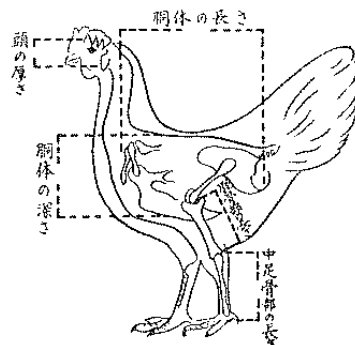
そこで現場において昨年の5月から10月の間にわたって単冠白色レグホン種の雄、雌について成長過程における体重及び鶏体各部位の測定を別図により実施しました。その内、餌付時より2、3週令まで

の測定結果は別表のとおりでありますので、参考に供しますが、この数値は平均の値ですから、これより若干大きめの雛もあり、また小さめの雛もおりますことを考えに入れて見ていただきます。

体重 この表によりますと雛の発育は非常に速く、体重は5週令で餌付時の約10倍、15週令で約40倍になります。

頭の大きさ 頭の中と厚さについてみますとこれらは殆んど同じであって、成長に伴っての変化は少なく、体重が餌付時の約40倍にもなる15週令において

測定部位の図



でも雄雌により若干の差はありますが、約2倍程度の成長にすぎません。なおこの数値はノギスでキッチリ挟んで測った値ですからこの点は考慮願います。

胴体の巾及び深さ 胴体の巾は羽根を含まず脚を含む最大の巾を測定した数値であります。胴体の深さは図のとおり体の長径に直角に最大の部を測定した値であります。胴体の巾、深さの成長度は体重の1/10程度であります。前に述べた頭の巾及び厚さ並びにこの胴体の巾により、大体育雛器の首出し

鶏体各部位の大きさ (白レグ, 単位 Gm)

| | | 週令 | | | | | | | | |
|---|------------|-----|-----|-----|------|------|------|-------|-------|-------|
| | | 餌付時 | 1 | 3 | 5 | 7 | 11 | 15 | 19 | 23 |
| 雄 | 体重 (g) | 34 | 63 | 169 | 345 | 563 | 957 | 1,434 | 1,659 | 1,951 |
| | 頭の厚さ | 1.7 | 1.8 | 2.2 | 2.4 | 2.8 | 3.2 | 3.5 | 3.5 | 3.5 |
| | 頭の巾 | 1.7 | 1.8 | 2.1 | 2.4 | 2.7 | 3.2 | 3.4 | 3.5 | 3.6 |
| | 頭の長さ | 3.3 | 4.3 | 6.6 | 8.1 | 10.3 | 11.9 | 14.1 | 15.4 | 15.9 |
| | 嘴先端より頭後端まで | 3.4 | 3.7 | 4.6 | 5.5 | 6.4 | 7.4 | 8.1 | 8.3 | 8.4 |
| | 胴体の深さ | 2.8 | 3.8 | 5.5 | 7.2 | 8.5 | 10.2 | 10.9 | 12.0 | 12.4 |
| | 胴体の長さ | 4.8 | 5.7 | 8.5 | 11.3 | 14.2 | 17.2 | 19.1 | 20.2 | 20.7 |
| | 胴体の巾 | 2.6 | 3.1 | 5.0 | 6.1 | 7.1 | 8.8 | 10.1 | 10.8 | 11.3 |
| | 脛骨部の長さ | 3.8 | 4.3 | 6.1 | 7.9 | 9.9 | 12.6 | 14.7 | 15.6 | 15.7 |
| | 中足骨部の長さ | 3.0 | 3.4 | 4.6 | 6.2 | 7.9 | 10.2 | 11.7 | 12.0 | 12.1 |
| | 膝の巾 | — | — | — | 1.3 | 1.6 | 1.8 | 1.9 | 1.9 | 2.0 |
| 雌 | 体重 (g) | 33 | 61 | 156 | 316 | 471 | 729 | 1,035 | 1,275 | 1,527 |
| | 頭の厚さ | 1.7 | 1.8 | 2.2 | 2.4 | 2.7 | 3.0 | 3.2 | 3.3 | 3.3 |
| | 頭の巾 | 1.7 | 1.7 | 2.1 | 2.4 | 2.7 | 2.9 | 3.2 | 3.2 | 3.2 |
| | 頭の長さ | 3.0 | 3.4 | 7.1 | 7.8 | 9.5 | 11.5 | 13.7 | 14.7 | 15.3 |
| | 嘴先端より頭後端まで | 3.4 | 3.6 | 4.6 | 5.4 | 6.2 | 7.1 | 7.6 | 7.7 | 7.7 |
| | 胴体の深さ | 2.8 | 3.4 | 5.2 | 6.7 | 8.0 | 9.5 | 10.4 | 11.1 | 11.6 |
| | 胴体の長さ | 4.7 | 5.3 | 7.7 | 10.5 | 12.8 | 15.8 | 17.4 | 18.5 | 18.8 |
| | 胴体の巾 | 2.5 | 3.1 | 4.6 | 6.1 | 6.8 | 7.6 | 8.5 | 9.4 | 9.9 |
| | 脛骨部の長さ | 3.8 | 4.1 | 5.9 | 7.8 | 9.4 | 11.8 | 13.2 | 13.6 | 13.7 |
| | 中足骨部の長さ | 3.0 | 3.2 | 4.5 | 6.0 | 7.5 | 9.2 | 10.2 | 10.5 | 10.5 |
| | 膝の巾 | — | — | — | 1.3 | 1.5 | 1.6 | 1.6 | 1.7 | 1.7 |

岡山畜産便り1962.05

の適当な大きさが判ります。状況によっては体の小さい雛は抜け出ることがありますが、この場合は胴体の深さを考えて、横木（鉄棒）を設けて抜け出のを防ぐとよろしい。しかしこのとき雛は若干体を斜にして抜け出ることがありますのでその点を考える必要があります。

次に1.8m（1間）当り並ぶことができる羽数は、この胴体の中の数値を参考としていただければよろしい、しかしこの表の数値は羽根（主翼羽、副翼羽）を含んでおりませんので、羽根を含む場合はこの数値より約40%程度大きい数値をもって考えていただければよろしい。

の長さ 顎の長さは図のとおり頭部後端より鎖骨前端までの人為的に引伸した場合の長さであって、この長さと嘴先端より頭後部までの長さを加えたものを参考として給餌器等の深さを考えればよろしい。

膝関節の中 これはケージ床の鉄線の間隔と関連がありまして、この間隔が不適當でありますと、ケージ床の鉄線の間隙に膝を落とし抜けなくなり傷害を受けることとなります。別表の数値を参考として、適当な間隔の床を使用することが大切であります。

体の高さ 体の高さは、雄、雌により姿勢が大分異なり、また状態により相違がありますので、確実な高さは明確でないのですが、別表の顎の長さ、胴体の深さ及び長さ、脛骨部の長さ、中足骨部の長さ等を参考にして算出していただければよろしい。

以上成長過程における鶏体各部位の大きさと、これを管理器具に利用することについて述べましたが、個体により若干の差があること、各部位によってはかなりの伸縮があることなどを考えに入れて、この表をうまく活用して、成長に応じて、適切な管理器具を作製する上に役立たせていただきたいと思います。